

結婚相手を地域で探す「婚活」を、自治体が支援する取り組みが盛況だ。16市町村が結婚相談所を設ける山梨県では合同パーティーも開かれ、登録者がこの5年で1.5倍に。出会いづくりに乗り出す新たな動きもあり、伴侶を求める男女の真剣な姿が見られる。

(甲府支局 佐藤友紀、地方部 森本隆之)

山梨、甲州、笛吹の3市が11月に開いたお見合いパーティーに、20〜40歳代の40人が参加した。女性は18人。会場となった山梨市の笛吹川フルーツ公園は、甲府盆地の夜景が見渡せる「恋人の聖地」と呼ばれる人気スポット。主催者の意気込みが伝わる。

「実家は果樹農家です」「次男です」……。男性の自己紹介でパーティーは緊張気味に始まった。7卓に分かれてケーキなどを食べるうちに打ち解け、意中の相手に声をかけ、

「地元で婚活」市が「一役

山梨 会場に「恋人の聖地」



登録者5年で1.5倍

名刺を配る男性の姿も。甲州市の自営業男性(39)は「長男で親と同居が希望だが、別居でも構わない。相手は気が合うなら、多くは望まない。パーティーは地元の女性が多く、お嫁さんを見つけない」と意欲的だ。

男性が席を移りながら、1分間ずつ女性全員と話をする機会も設けられた。最後に気に入った相手を選び、男女双方が一致すれば、カップル誕生。この日はカップル4組ができ、2組はその後デートをした。

山梨では28自治体のうち16が役所に結婚相談所を置き、委託された結婚相談員が登録した人を引き合わせる。登録は公務員や自営業、看護職などと幅広く、5年前に比べ1.5倍の延べ1000人を超えた。パーティーに参加した栄養士の女性(29)は「自治体なら安心できます」と話



3市合同のお見合いパーティーで、会話や会食を楽しむ参加者たち(山梨県山梨市のフルーツパーク富士屋ホテルで)＝佐藤友紀撮影

人が減り、活気もなくなる。おせっかいでも、出会いの場をつくり続けることが大事」と話す。



長野県飯山市は今年から、そば打ちやカレーなどを通じた交流会を始めた。群馬県は、民間が企画する出会いイベント情報を会員企業の従業員らに発信。昨春から1600人以上が参加した。県の担当者は「企業名を公表することで、安心して参加できるようです。男性は空き待ち」と話す。

した。県も民間に委託してパーティーやマナー講習を開く。背景に、地元で出会いの場が乏しく、農業後継者の相手が見つからないなどの危機感がある。県結婚相談員連絡協議会の赤池政敬(まさたか)会長(81)は「若者が都会に出てしまい、地元で結婚を考える」

日本青年館結婚相談所の板本洋子専門相談員の話「『婚活』という言葉が普及し、お見合いが特別ではないう意識が広がり、自治体の出会いの場への参加が増えているのだらう。一方で自治体は、未婚の要因を探り、対応策も考える必要がある」